

2016年11月1日
ちばぎん総合研究所
ぶぎん地域経済研究所

16年度上半期の千葉県・埼玉県企業アンケート調査の比較分析

「ちばぎん総合研究所」および「ぶぎん地域経済研究所」では、千葉・武蔵野アライアンス（注）の下で、今回初めての試みとして、千葉県・埼玉県の企業アンケートに共通の調査項目を設定し、両県の比較分析を行った。

今回の企業アンケート調査では、16年度の業績見込み、消費増税延期や英国のEU離脱の影響、マイナス金利政策継続や円高基調の影響について、共通の調査を実施した。

（注）千葉銀行と武蔵野銀行では、本年3月以降、包括的な業務提携を行っている。

（ちばぎん総合研究所＜千葉経済センターから調査を受託＞）

業種別・本社所在地別・規模別回答企業数

(単位：社)

	合計	本社所在地		企業規模	
		県内	県外	大企業	中小企業
全産業	225	197	28	53	172
製造業	112	96	16	21	91
食料品	24	19	5	8	16
石油・化学	14	9	5	6	8
プラスチック	6	5	1	0	6
窯業・土石	12	12	0	0	12
鉄鋼・非鉄金属	7	7	0	0	7
金属製品	13	9	4	2	11
一般・精密機械	10	9	1	3	7
電気機械	3	3	0	0	3
輸送用機械	12	12	0	2	10
その他製造	11	11	0	0	11
非製造業	113	101	12	32	81
建設	13	11	2	4	9
運輸・倉庫	11	11	0	2	9
卸売	23	20	3	5	18
小売	19	17	2	4	15
ホテル・旅館	11	9	2	5	6
サービス	36	33	3	12	24

注) 大企業、中小企業の区分は下記による。

大企業…資本金1億円以上。ただし、卸売業は5,000万円以上、小売業、ホテル・旅館業、サービス業は3,000万円以上とする。

中小企業…資本金1億円未満。ただし、卸売業は5,000万円未満、小売業、ホテル・旅館業、サービス業は3,000万円未満とする。

調査要領

1. 対象企業… 千葉県内に本社または事業所を有する企業
2. 方法… 郵送によるアンケート方式
3. 実施時点… 配布：2016年 9月 1日
回収：2016年 10月 11日
4. 回答状況… 調査対象企業 586社
内有効回答数 225社
有効回答率 38.4%

（注）調査票の回収数は225だが、設問ごとに回答数が異なるため、各問での有効回答数（母数：n）は異なる。

(ぶぎん地域経済研究所)

業種別・規模別回答企業数

(単位:社)

	合計	企業規模	
		100人以上	100人未満
全産業	232	112	120
製造業	133	59	74
紙加工品等	9	2	7
化学・プラスチック・ゴム製品	7	2	5
鉄鋼・非鉄金属	12	6	6
金属製品	9	4	5
その他素材型	15	0	15
一般機械器具	16	10	6
電気・情報通信機械器具	9	2	7
電子部品・デバイス	11	4	7
輸送用機械	11	9	2
精密機械	10	6	4
飲・食料品	10	6	4
印刷・同関連業	8	6	2
その他製造業	6	2	4
非製造業	99	53	46
一般建設	20	5	15
住宅建設	7	4	3
卸 売	14	2	12
小 売	22	16	6
運輸・倉庫	12	9	3
不動産	6	1	5
その他非製造業	18	16	2

(注1)従業員100人以上を「企業規模の大きい企業」に、
従業員100人未満を「規模の小さい企業」とした。

(注2)その他素材型は、繊維・衣服・その他の繊維、木材・木製品・家具、
窯業・土石の3業種。

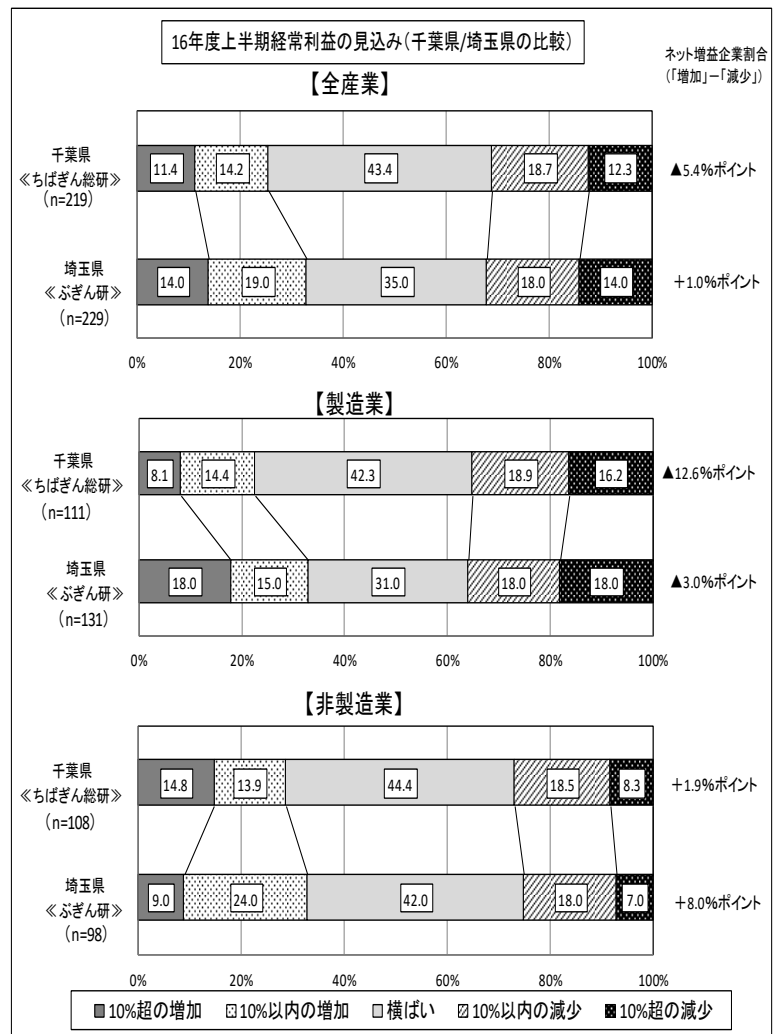
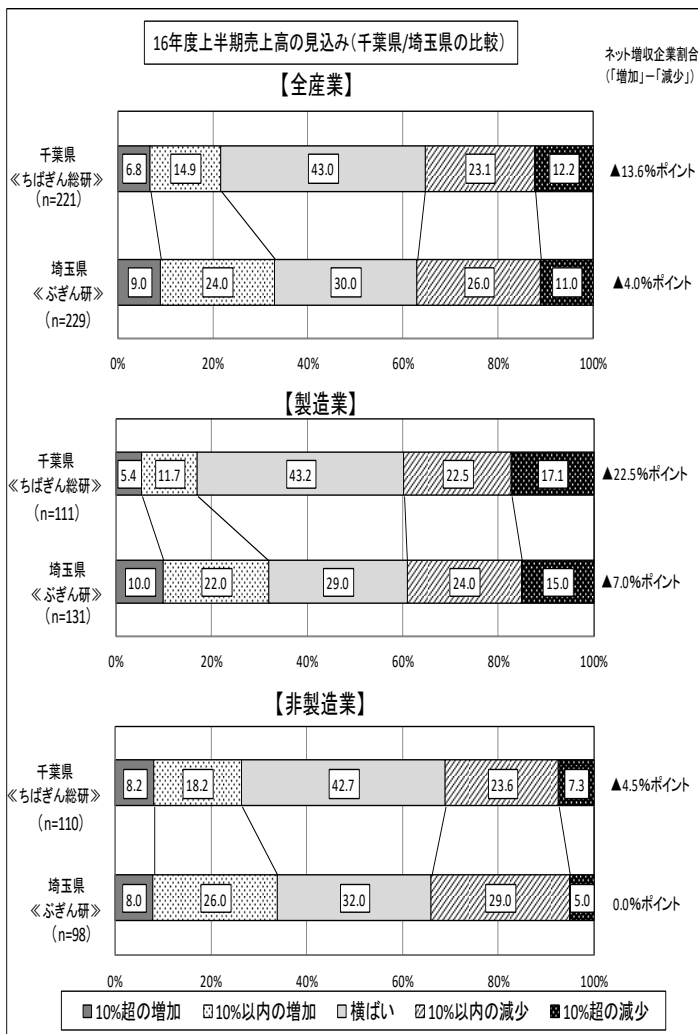
調査要領

1. 対象企業…埼玉県内に本社または事業
所を有する企業
2. 方 法…郵送によるアンケート方式
3. 実施時点
配布:2016年7月27日
回収:2016年8月23日
4. 回答状況…調査対象企業 567社
内有効回答数 232社
有効回答率 40.9%

(16年度上半期業績)

まず16年度上半期業績について比較したところ、売上高は両県とも減少となった。非製造業に比べ、製造業のほうが売上落ち込み幅が大きいことでも共通している。

経常利益についても、両県とも非製造業が堅調である一方、製造業では不芳との結果となった。製造業のネット増益企業割合は、千葉県(▲12.6%ポイント)が埼玉県(▲3.0%ポイント)を下回る結果となったが、これは、千葉県は素材型産業、埼玉県は加工組立型産業のウェイトが高いという産業構造の相違(次ページ参照)による影響が大きいとみられる。すなわち、千葉県では、鉄鋼や石油・化学など、製品価格が国際商品市況の影響を受けやすい業種が多く、今期は減益幅が拡大したとみられる。



【参考】千葉県と埼玉県の製造業産業構成の違い

両県の製造業産業構成を比較すると、千葉県は化学や鉄鋼業など素材型産業の比重が高い一方で、埼玉県は輸送機械製造など加工型産業の比重が高い。

【鉱工業生産（付加価値額）の構成比】 【製造品出荷額（14年時点）】
（14年時点） （単位：％）

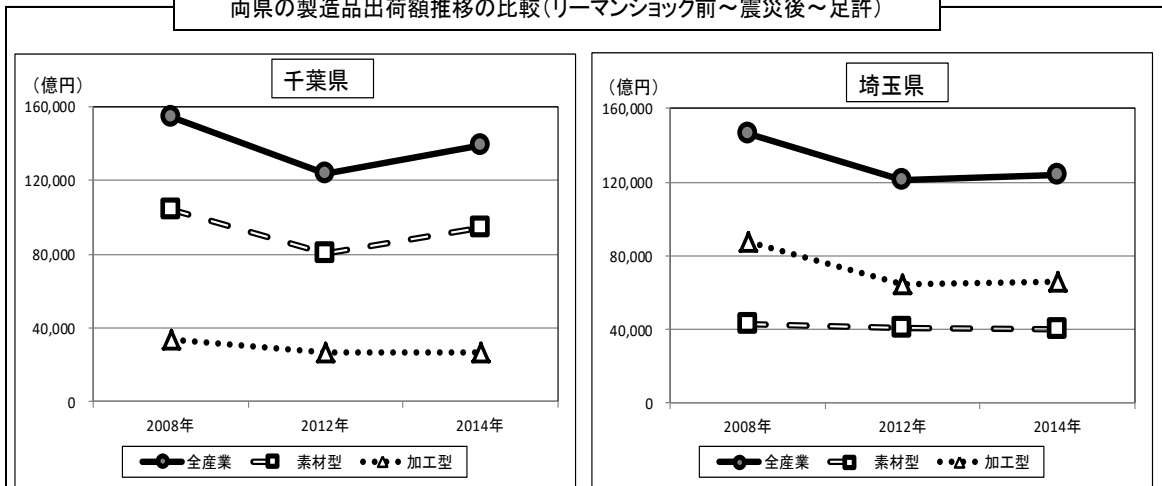
（14年時点）			（単位：億円、％）			
	千葉県	埼玉県	千葉県	12年比	埼玉県	12年比
全産業	100.0	100.0	138,743	12.0	123,908	2.1
素材型	60.2	34.2	94,629	17.6	40,070	▲ 1.4
化学	30.7	18.1	31,311	17.1	15,501	▲ 8.7
石油石炭	9.9	0.0	36,065	32.5	438	12.2
鉄鋼	9.7	1.7	18,376	5.5	3,334	▲ 2.3
プラスチック	3.8	7.3	2,665	8.4	6,924	9.0
窯業土石	3.5	2.3	2,732	7.3	2,723	10.2
非鉄	1.3	2.5	2,213	▲ 19.8	5,988	9.4
パルプ・紙	0.8	1.3	1,038	▲ 2.7	4,247	▲ 6.5
繊維	0.5	0.9	229	▲ 9.1	917	▲ 9.0
加工型	23.9	55.5	26,970	0.3	65,666	1.6
輸送機械	2.2	12.5	1,286	▲ 10.7	22,012	9.7
その他 （ゴム・家具等）	3.7	10.1	5,750	55.9	12,863	8.0
電気機械・ 情報通信機械	1.6	9.1	3,192	▲ 49.8	7,568	▲ 3.8
業務用機械	0.7	5.5	1,705	60.8	3,788	▲ 1.5
生産機械	3.0	5.1	4,636	16.7	5,218	11.4
電子デバイス	3.9	4.7	2,313	▲ 26.5	3,451	▲ 41.1
汎用機械	2.8	4.6	2,305	21.1	3,831	▲ 0.2
金属製品	6.1	4.0	5,783	9.5	6,936	5.8
その他	15.9	10.3	17,143	3.6	18,172	12.6
食料品	15.7	10.3	17,143	3.6	18,172	12.6
鉱業	0.2	0.1				

（注）出所：千葉県、埼玉県

（注）1. 出所：千葉県、埼玉県

2. 加工型その他は、産業中分類の「その他」「木材・木製品」「家具・装飾品」「印刷」「ゴム」「なめし皮」の合計。食料品は産業中分類の「食料品」「飲料・たばこ」の合計

両県の製造品出荷額推移の比較（リーマンショック前～震災後～足許）



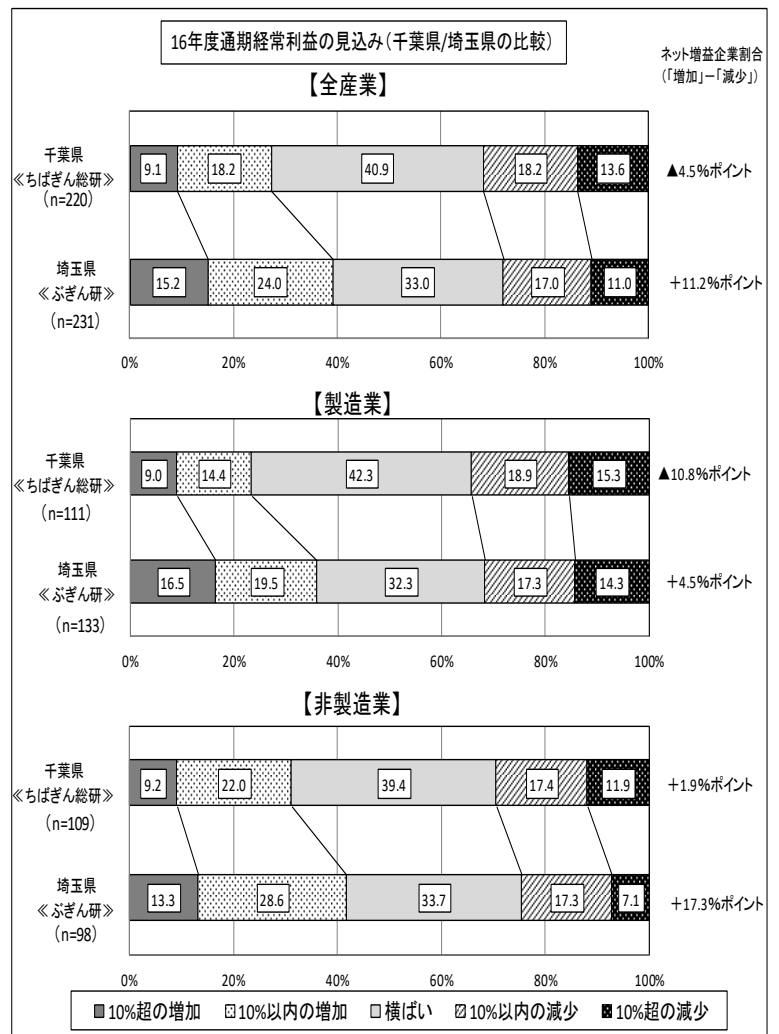
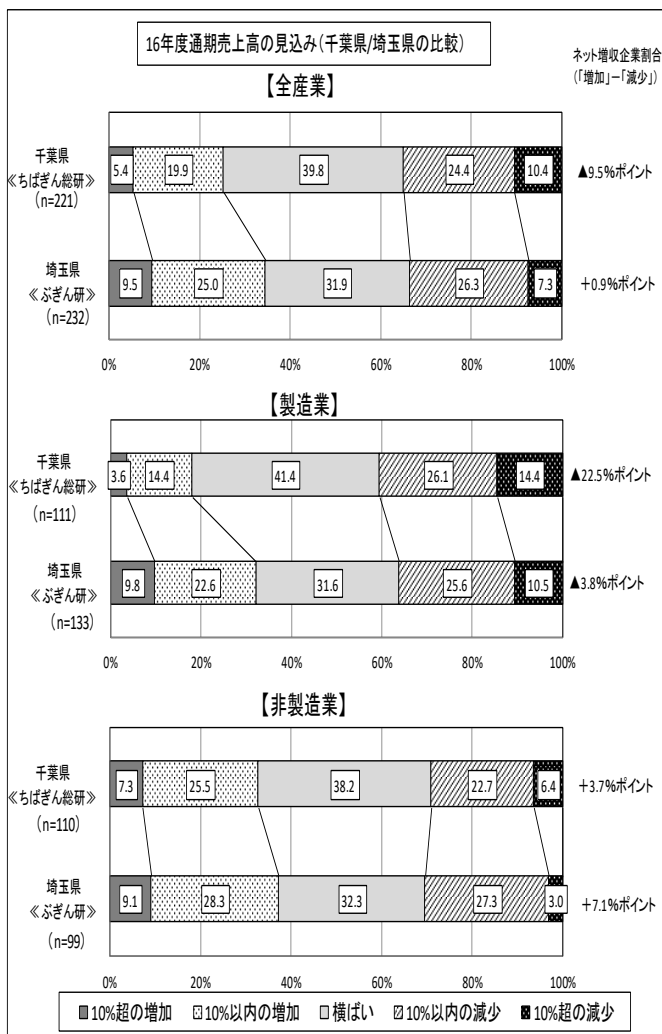
（出所）千葉県、埼玉県「工業統計調査」より株式会社ばぎん総合研究所が作成

（16年度通期業績見込み）

16年度通期見込みについても、製造業に比べ非製造業の業績が堅調である点で両県とも共通している。

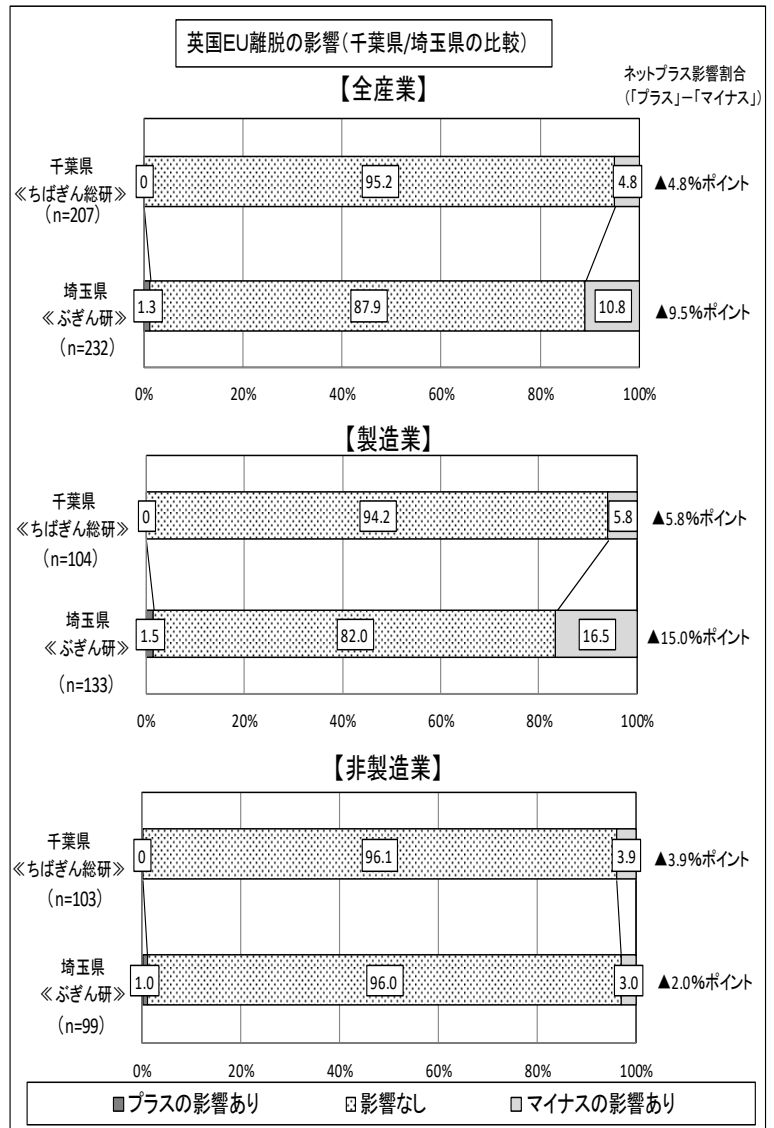
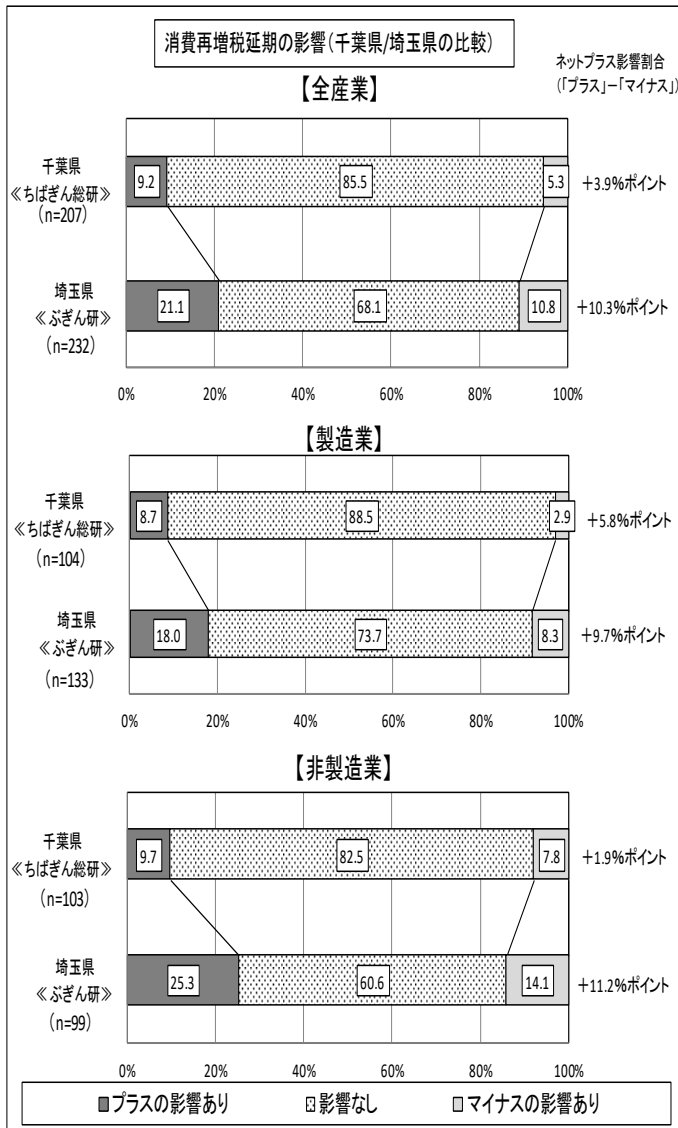
国際市況の影響を大きく受ける素材型産業のウエイトが高い千葉県では、国際鋼材市況の軟化や為替円高の影響から3港合計の輸出額が9か月連続で前年割れとなるなど、埼玉県（自動車・同部品など加工組立産業のウエイトが大）に比べて経営環境が厳しい中、売上の減少幅も埼玉県に比べ大きくなっている（ネット増収割合：千葉県▲9.5%ポイント、埼玉県+0.9%ポイント）。

経常利益についても、埼玉県では圏央道をはじめとした交通インフラの整備がより進んでいることを受けて、運輸・倉庫業や建設業などの非製造業を中心に、千葉県よりも良好な結果となっている（同：千葉県▲4.5%ポイント、埼玉県+11.2%ポイント）。



（消費再増税延期、英国のEU離脱の影響）

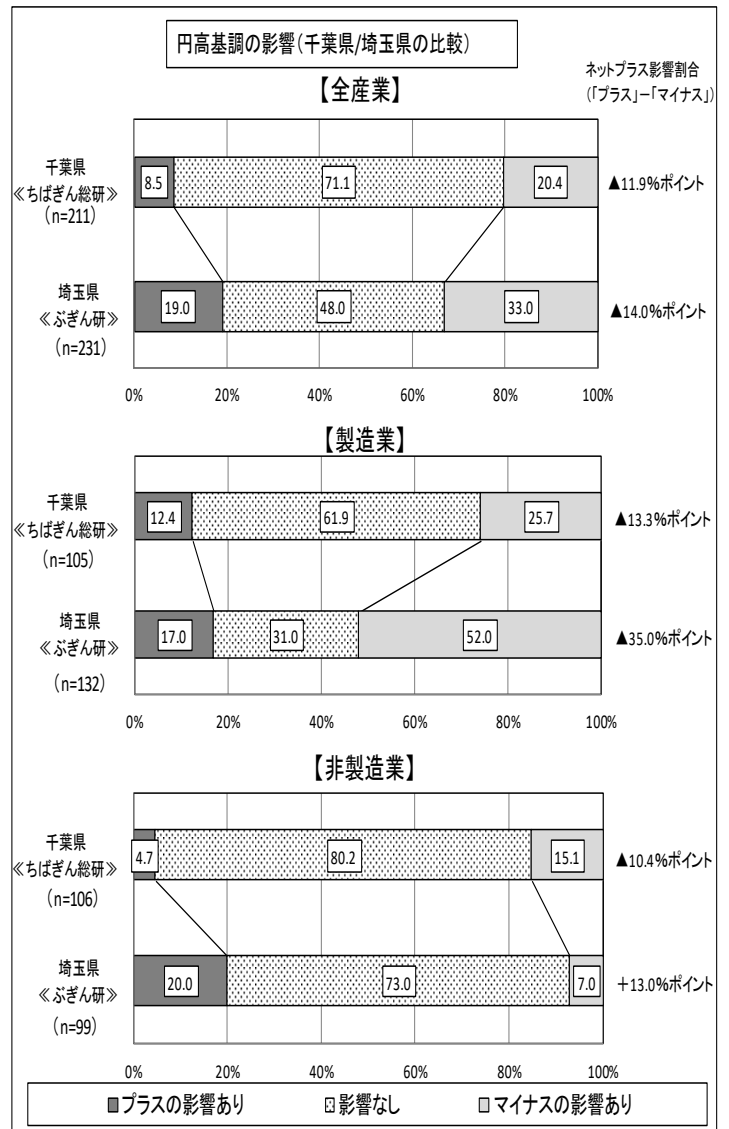
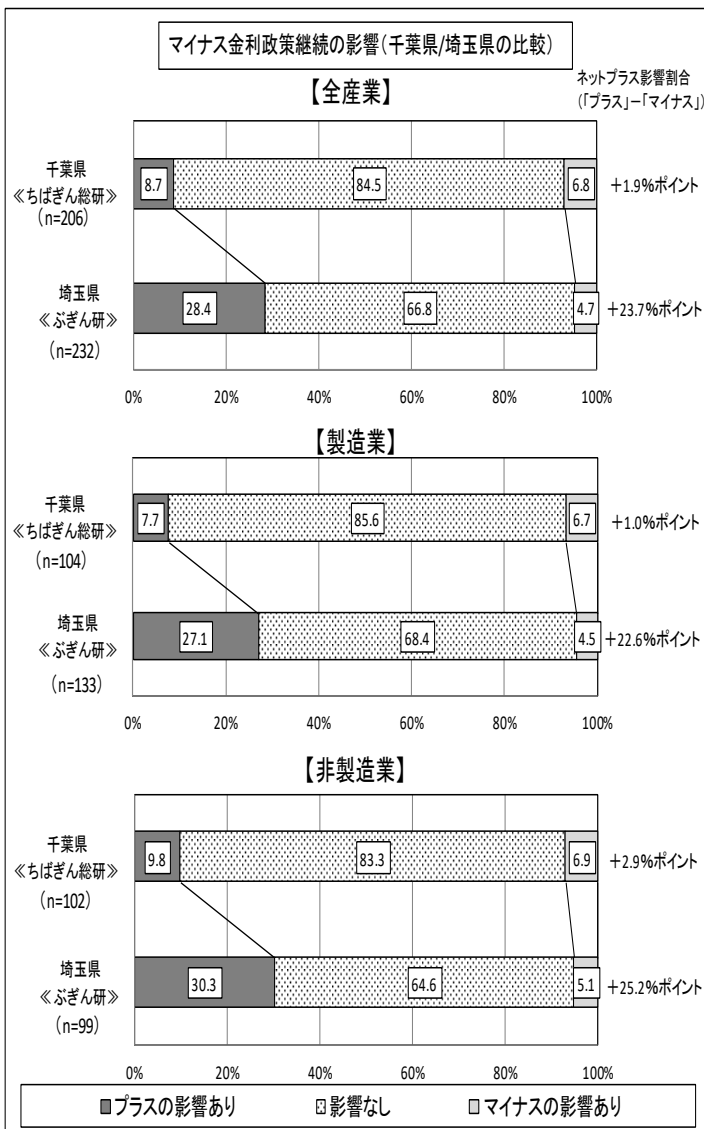
「消費再増税延期」の影響については、両県とも「プラスの影響」が「マイナスの影響」を上回った。また、「英国のEU離脱」の影響でも、「影響なし」とする先が多く、両県で大きな違いはみられない。



(マイナス金利政策継続、円高基調の影響)

マイナス金利政策継続については、「プラスの影響」を受けると回答した企業の割合で、埼玉県が千葉県を大きく上回った。千葉県の素材産業は大企業の出先が多く資金繰りも本社（東京）が行っているケースが少ないため地元での低利資金調達ニーズがさほど強くない一方、埼玉県では中小零細企業のウエイトが高いことから、資金調達金利低下への期待が背景にあるとみられる。

円高基調の影響は、製造業では、輸出採算の悪化や取引先の輸出減少に伴う受注減などといった影響に伴い、両県ともに「マイナスの影響」が「プラスの影響」を上回る。非製造業は、国際空港を擁するなどインバウンド需要の恩恵を強く受けている千葉県で「マイナスの影響」が「プラスの影響」を上回っている。



以上